

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

解答形式

記述・選択・描図

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

設問数は減少したが、題意をくみとるのに時間を要する問題が出題された。

出題の特徴

描図問題は出題されたが、計算の過程を示す問題は出題されなかった。

その他トピックス

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 (記述) 問形式 (記述・ 描図)	力学 (回転リング 上での 単振動)	物理	設問 <input type="text" value="き"/> までを確実に解答していくことが大切である。	やや難
II	問形式 (記述・ 描図)	電磁気 (電流がつく る磁場と電磁 誘導)	物理	題意をていねいにくみとれば、単純な設定の問題であることがわかる。	標準
III	空所補充 (記述・ 選択)	原子・波動 (エネルギー 準位・ 回折格子・ ドップラー 効果)	物理	(1) は原子分野の基礎知識を問う問題である。 (2)、(3) は典型的な波動の問題であり、確実に解答したい。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。